



# Fuji Champion Race Series Round 1

2022.4.2 SAT - 4.3 SUN

FCR-Vitz  
Round 1



今シーズンの開幕戦を迎えた富士チャンピオンレース。天候にも恵まれた土曜日、最初のレースはFCR-Vitz。朝の予選でトップタイムを出して今年最初のポールポジションを決めたのはベテランの#8 東京IRCvivo阿部Vitz イシカワヨシオ 2'16.328 フロントローには#50 NAVAL☆制動屋おうちの買い方Vitz 三浦康司 2'16.663が並ぶ。3番手に#46 46KUSヴィクトリー Vitz ジェネリック内田 2'16.676。4番手には#713 白井家次男坊お父さんのVitz 白井涼 2'16.901となった。

決勝レースは11:30にスタートが切られ、直後から激しいトップ争いとなり、TGRコーナーへは、トップ3台が横並びで入っていき、接戦のオープニングラップを最初に戻って来たのは#50 三浦、とはいえ各コーナーで順位が入れ替わりの激しいレース展開となり、2周目にコントロールラインをトップで通過したのは、#46 内田、翌周は#50三浦が奪い返す。その後もバトルは繰り広げられるが8周目になると#50三浦、#713白井、#8イシカワの3台が0.1秒差で優勝をかけた戦いが続き9周目には#713白井が最初にコントロールラインを超える。ラストラップまで続く接戦の中10周の決勝は#50三浦が制し、2位に#713白井、3位は#8イシカワとなった。レース終了後優勝した#50三浦は「本当に楽しいレースでした！！今まで何度も優勝はしていますが、こんなに楽しかったレースは初めてです。みんなフェアーナバトルをしてくれましたしね。ラストラップでは白井さんとイシカワさんがバトルの隙にちょっと前に出されました。FCR-Vitz、マシンもまだまだ残っているし、やはり楽しいカテゴリーなので続けて欲しいです」と語った。



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト FCR-Vitz	
Rank No.	Name
1	50 三浦 康司
2	713 白井 涼
3	8 イシカワヨシオ
4	747 坂野 貴毅
5	208 太田 智史
6	456 大崎 達也

FCR-86BRZ RACE

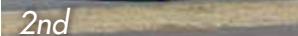
Round 1



今シーズンから新たに富士チャンピオンレースシリーズに加わったFCR-86BRZ Race。2021年までTGR 86/BRZ RACEで使用されていた車両を用いたシリーズ。その開幕を祝福するような好天の中、土曜日に公式予選が21台によって競われ、トップタイムを出したのは#303 NMSP KR 86 奈良 敬志 2'05.711。フロントローに並ぶのは#115 OFFICEHIT86K-one 三浦亮保 2'05.951、3番手には#33 RSアムロSGR 86 米田利唯 2'06.285と決まった。決勝開始は12:45、21台のマシンが一斉に1コーナーへ飛び込んでいく。好スタートを決めてTGRコーナーへは#115 三浦がトップで入っていくが、さらに4番手グリッドから好ダッシュの#23 N-SPEED 86 YOSHIKIが2コーナーで#115 三浦をとらえトップに立ち、接戦のオープニングラップをトップでコントロールラインへ戻って来た。この上位4台は、その後もコンマ差の激しいトップ争いを続ける。レース終盤にさしかかると、2番手争いを後目に#23 YOSHIKIは徐々に後方とのタイム差を広げるが、上位陣のバトルは最後まで続き、10周の決勝を制したのは#23 YOSHIKI、2番手には#303 奈良、3番手は#115 三浦という結果になった。レース後#23 YOSHIKIは「予選がダメだったので、決勝では絶対に前に行くぞ！と思いつきました。このシリーズのために新車を買って参戦です。マシンの調子も良く安定して走ることが出来ました」と語った。



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト FCR-86BRZ RACE	
Rank No.	Name
1	23 YOSHIKI
2	303 奈良 敬志
3	115 三浦 亮保
4	33 米田 利唯
5	2 伊藤 俊哉
6	168 長崎 裕司





FORMULA REGIONAL JAPANESE CHAMPIONSHIPは、ここ富士で開幕を迎えた。岡山・もてぎ・SUGO・鈴鹿と全6ラウンド17レースで戦われる。鈴鹿が2レース開催でその他のサーキットでは3レース行われる。土曜日朝の公式予選が行われ、Q1のベストタイムがRACE 1のグリッドで、セカンドベストタイムでRACE 3のグリッド。Q2の結果がRACE 2のグリッドとなる。Q1でトップタイムを出したのは#3 Sutekina Racing 澤龍之介 1'38.001。フロントローには#97 Bionic Jack Racing Scholarship FRJ 小川颶太。Mクラスのトップは総合4番手の#11 Rn-sportsF111/3 HIROPON 1'39.432。

好天の土曜日に行われたRACE 1の決勝、オープニングラップのトップは#3澤、2番手には3番グリッドからの#8 TGR-DCF111/3 小山美姫が続き、3番手#6 Team LeMans F111/3 片山義章の順で通過。その後もその順位のままトップ3台は等間隔に周回を重ね、15周の決勝は#3 澤が優勝した。2位に#8 小山、3位#6片山。Mクラスは#11 HIROPONの優勝。レース後の各クラス優勝ドライバーコメント。#3澤「新品タイヤで不安もありましたが、ラップタイムも安定していたし後ろを引き離せることが出来ました。予選から思っていたよりペースも上げられなくてまだ納得できていない部分もありますが、幸先の良いスタートを切れたので明日も頑張ります」#11 HIROPON「決勝のペースは良くなかったけれど前に出られました。前に出たらプレッシャーもすごかったのですが、とりあえずミスをしないように走りました。フォーミュラーのデビューレースで優勝出来てとても嬉しいです」



RESULT リザルト FR-Race 1	
Rank No.	Name
1	3 澤 龍之介
2	8 小山 美姫
3	6 片山 義章
4	97 小川 颶太

RESULT リザルト MASTER Class	
Rank No.	Name
1	11 HIROPON
2	14 田中 優暉
3	34 三浦 勝
4	4 今田 信宏
5	45 辻子 依亘



RACE 2は日曜日の9:50より決勝スタートだが、好天で暖かかった昨日とは打って変わって朝からウェットコンディションになってしまい、気温6.7度とかなり寒い。予選のQ2で決まったグリッドはポールが#3 Sutekina Racing 澤龍之介 1'36.861、フロントローには#8 TGR-DC F111/3 小山美姫が 1'37.441で並ぶ。Mクラスは総合5番手の#11 Rn-sports F111/3 HIROPONの1'38.564がトップポジションからのスタート。雨が強いためSCスタートに変更し、3周目にリスタートが切られるとTGRコーナーで#3澤は少しオーバーランするも、そのままの順位を守りきり、ポールトウインを決めた。レース後#3澤は「2連勝出来てよかったです。終盤は気合でブッシュしました」Mクラス優勝の#11HIROPONは「初めての雨のフォーミュラーで前は見えないし、グリップも無いし難しかった」と語った

#### RESULT リザルト FR-Race 2

Rank No.	Name
1	3 澤 龍之介
2	8 小山 美姫
3	6 片山 義章
4	97 小川 颶太

RESULT リザルト MASTER Class	
Rank No.	Name
1	11 HIROPON
2	4 今田 信宏
3	34 三浦 勝
4	14 田中 優暉
5	45 辻子 依亘



RACE 3は予選Q1のセカンドベストタイムが今回のグリッドになり、ポールポジションは#3 Sutekina Racing 澤龍之介 1'38.459。フロントローには#97 Bionic Jack Racing Scholarship FRJ 小川颶太が並ぶ。Mクラストップは#11 Rn-sportsF111/3 HIROPON 1'39.607といった順。RACE 2の時よりもさらに雨が強く、SCは3周先導し、4周目にリスタートが切られた。#3澤はトップを守りその後ろではオープニングラップから#97小川と#8小山の2番手争い。その隙に#3澤がマージンを稼いでゆく。20分経過し、13周となった決勝は#3澤が逃げ切った。レース後各クラス優勝ドライバーのコメント#3澤「第2戦の後にセッティングを変えました。SCランの時にこれはイケるなと思いました」#11HIROPON「一度スピンしちゃいましたが戻れました。雨で良かったなと思える週末でした」

#### RESULT リザルト FR-Race 3

Rank No.	Name
1	3 澤 龍之介
2	97 小川 颶太
3	8 小山 美姫
4	6 片山 義章

RESULT リザルト MASTER Class	
Rank No.	Name
1	11 HIROPON
2	14 田中 優暉
3	4 今田 信宏
4	34 三浦 勝
5	45 辻子 依亘

# ROADSTER CUP

1.5/1.6/1.8/2.0

Round 1



ロードスタークラブ第1戦は日曜日に予選・決勝が行われた。早朝から雨に見舞われ、ウェットコンディションとなっている。公式予選がはじまるが、11分後にはにコース全周が霧で覆われしまい、また、アクシデントの車両排除のために赤旗中断、そのまま予選終了となった。ポールポジションは2.0OP #5 JoyアクレMoty's EA 山崎善健 2'25.204。フロントローが1.8 #2 ACREロードスター NB8 渡邊達也 2'25.439、3番手には1.5OP #23 ASM JOY ND5 山本謙吾2'25.980となった。

決勝レースは、霧は上がったものの雨は降り続きSCスタートとなった。3周目にSCがピットへ入りリストアが切られた。雨量も多いので各コーナーでコースオフしてしまうマシンも見られたが、大きなトラブルもなく上位陣はコンマ差のダンゴ状態で周回を重ね、各所でバトルも多く繰り広げられた。難しいコンディションの中、8周の決勝を制したのは#5 山崎、総合2番手には予選6番グリッドから徐々に順位を上げた1.8 #12 JOY☆

アクレMoty'sNB8 石森聖生、1.6は最後まで接戦だったが、先にチェックを受けたのは#34 AKC内藤板金WinmaxNA6 竹田幸一郎、1.5OPは#7 JOYアクレMoty's☆ND5 茂木文明、1.5CHは#38 Shootingロードスター 中村進となつた。各クラス優勝ドライバーのコメント #34竹田「バトル凄かった。最終ラップは1コーナーで前にでられて、その後も並ばれましたが守り切りました」#12 石森「タイヤがなかなか温まらなくて。最終ラップは狙って前に出ることが出来ました。この雨の中で勝てたことは良い経験になります」#7茂木「自分にとって内容が全然納得できていないですがサバイバルレースの中で優勝できたのは良かったです」#38 中村「ウェットの用意をしていなかったので神経を使いました。集中して完走を目指した結果、勝つことが出来ました」#5山崎「毎周回コースコンディションが変わったので対応しながら走らせるのは大変でしたが6連勝できて嬉しいです」と語った。



Winner



2nd



3rd



## RESULT リザルト 1.5 Open

Rank No.	Name
1	7 茂木文明
2	14 小倉徹
3	79 杉浦良
4	23 山本謙吾
5	45 伊藤英彥



Winner



2nd



3rd



## RESULT リザルト 1.5 Challenge

Rank No.	Name
1	38 中村進
2	28 四條健
3	0 北田辰男
4	22 藤吉健一
5	6 木村安志
6	95 小山政則



Winner



2nd



3rd



## RESULT リザルト 1.6

Rank No.	Name
1	34 竹田幸一郎
2	27 野木強
3	73 高橋功典



Winner



2nd



3rd



## RESULT リザルト 1.8

Rank No.	Name
1	12 石森聖生
2	18 小林哲男
3	2 渡邊達也
4	84 大矢明夫
5	91 神谷誠
6	55 澤田薰



Winner



2nd



## RESULT リザルト 2.0 Open

Rank No.	Name
1	5 山崎善健
2	77 長岡哲也

## Porsche Sprint Challenge Japan Round 1 & 2



Porsche Sprint Cup Japanも開幕戦を迎え、第1・2戦がここ富士で行われ、SUGO、再び富士、最終戦は鈴鹿と転戦して各2戦ずつ計8戦で開催される。日曜日に予選・決勝となっているが生憎の雨模様、朝の予選でトップタイムを出したのはGT3-Iクラス#32 GOOD DAY RACING akiratea 1'56.064。並ぶのは#22 PCJコヤマクリニック 小山雅也 1'56.675。GT3-IIクラスは総合4番手のTeam KRM 萩原秀樹の1'56.984。GT4は総合12番手の#71斯Porsche Japan GT4 Racing 山本聖渚1'59.093となっているがGT4は最後尾からのスタート。第1戦はこのグリッド順でスタートとなるが、やはり雨のためにSCが2周先導してのスタートとなった。次の周では1コーナーでのアクシデントでSCが導入され全車再びグリッドへ整列。その後もSCスタートとなって実質4周ほどの超スプリントレースになってしまったがその中リストアでジャンプアップしてきた予選3番手だった#99 Carshop K withスパジョンPCJ KEN YAMAMOTOが優勝。各クラスの優勝ドライバーはレース後、総合・GT3-I #99 KEN「優秀なメカニックさんたちがマシンセッティングをバッヂリ決めてくれました。」GT3-II #66 萩原「この雨の路面はけっこ怖かったです。ミスしないように完走を目指して走りました。」GT4 #71山本「無事に完走出来ました。自分のペースでマシンの調子をみながら頑張ります」と語った。



第2戦は、第1戦のレース中ベストラップの順で決勝グリッドが決まる。ポジションはGT3-I #84 GIRODISC CREF MOTORSPORT CupのMasa TAGA。GT3-IIでは7番手グリッドの#36 SATO Eye CLINIC GT3 佐藤俊介。GT4は#71 山本となっている。やはりこの天候で決勝スタートはSC先導で始まり3周目にSCがピットロードへ入るとリストアが切られたが、雨が酷くなり各所でコースオフするマシンが続々。5周目にはアドバンコーナーでクラッシュしたマシンがコース近くにストップしたために赤旗が提示された。レースはこの赤

旗をもって終了となった。優勝した#84 Masaは「勝てて良かったです。予選はダメでしたがセッティングをし直してくれたメカニックさんたちのおかげです」GT#-II#26佐藤「怖くて難しいコンディションでした。ミスしないように走りました」GT4 #71山本「2戦目は自分の改善点を見つけたので、試したかったけれど、そこまで走れなかったですが、また新たな課題も見つけられました」と語った。



86&BRZ

## FUJI 86BRZ Challenge Cup

Round 1



ナンバーなしN1車両とナンバー付きで改造範囲ごとにクラス分けの86&BRZが混走するこのカテゴリー。今シーズンの開幕戦は生憎の雨の中、日曜日に予選・決勝が行われた。総合予選トップタイムは86&BRZ #88 IDI服部クリニック86 服部文雄2'10.943。ドライ路面では、JP-2Rが早いが、雨ではN1車両の方が優位なのか。フロントローには、JP-2R プロコンポジットBLITZ86 小野田貴敬2'11.165が並ぶ。

FCR 第1戦最後に行われた決勝レース。気温6.8度の雨の中、スタートはSCスタートで隊列を整えながらTGRコーナーへと消えていく。2周目にSCの回転灯が滅灯しピットロードへ入り、リスタートが切られる。綺麗な隊列のままTGRコーナーへ消えていく各マシン。上位集団は1秒差ほどの間隔で周回を重ねるが、総合2番手・JP-2Sクラスのトップ争いが続いている。レース後半に入ると総合4番手からタイムアップしながら徐々に順位を上げてきた86&BRZ #53 沖縄トータルロジSHIFT86 森田幸二郎

が、9周目にファステストラップを更新し、最終ラップに入るストレートでトップを走る#88服部を捉えて前に出る。10周の決勝は#53 森田、#88服部、#99 小野田、#8古田の順でチェックカーとなった。レース後、各クラスの優勝ドライバーは86&BRZ #53 森田「マシンが調子良くて余裕はありました。後半で追い上げる作戦が上手くいって初優勝できました」JP-2R #99小野田「晴れていたらね～とは思うけど、この天気では総合トップがどうしようもなかったです。同じクラスの古田君には負けられないと思って走りました」JP-2S #16 HMRスポーツカー専門店BRZ 石川賢志「難しかったけれど、最終ラップでギリギリ前に出されました。初優勝でとても嬉しいです」JP-3S #700 UME700×YMS FT86 梅原雄一「初優勝は嬉しいですが、雨が下手なのでもうちょっと練習します」と語った。



Winner



2nd



3rd



### RESULT リザルト 86&BRZ

Rank No.	Name
1	53 森田 幸二郎
2	88 服部 文雄
3	57 伊藤 俊哉
4	222 松下 浩平
5	54 宮川 直樹
6	52 野田 宗男



Winner



2nd



3rd



### RESULT リザルト Fuji 86BRZ Challenge Cup 2R

Rank No.	Name
1	99 小野田 貴敏
2	8 古田 聰



Winner



2nd



3rd



### RESULT リザルト Fuji 86BRZ Challenge Cup 2S

Rank No.	Name
1	16 石川 賢志
2	50 五十嵐 剛木
3	241 鈴木 貴大



Winner



2nd



3rd



### RESULT リザルト Fuji 86BRZ Challenge Cup 3S

Rank No.	Name
1	700 梅原 雄一
2	72 堀 舜之
3	616 伊東 康宏